

イロンは泳ぎの名人、シエレーはボートが好きで遂に溺死した。理學家のチンダルは登山家でアルプスの氷河の研究もした。畫家ミレーズは松鷄獵を好み、政治家ジョンブライトは鱒釣りを好んでした。それが壯年ばかりでなく、經濟學者フオーセットは、盲目となつた後も、乘馬氷上りを望み、文學者トロロープは老年で身體重く、眼も殆んど見へぬやうになつても、尙甚だ狐狩りを好み政治家バルマートンは老年、殆んど死に近いまでも狩獵し、ダービーの競馬には乘馬で觀に行つた。鞍に上るのは少しは困難であつたが、乗つたら最後慥かなものであつた。哲學者スペンサーは其の著「第一原理」をボートをやつては書き、其の「心理學」の最も精微なる部分をゲームの隙に、ラケット（一種の遊技）のコートで書いた。彼れはまたテニスが上手で、釣り好きで、室内の遊びでは玉突きをやつた。外交家グレーも釣りが好きであり、ロイドジョージはゴルフをする。斯やうに擧げ來れば、恐らく運動の趣味を有たぬ名士を擧げる

方が早道であらう。若い時からよく運動する人は、年を取つても腰も曲らず元氣である。日本でも是からは、名士にも運動は付き物位にしたい。名士ならぬものも無論である。日本では、運動といへば利權運動で、運動場は待合の四疊半だ。こんな事で、キビ／＼した仕事が出来ると譯はないか。

## 第二十二節 勇氣

英國人は勇氣に富んで居り、卑怯な事は嫌である。これは餘程この國民の運動氣質から來て居ると思ふ。英人のする運動は、力一ぱい出して、負けるか勝つかハッキリせねば承知しない。そして中々頑固で負け嫌ひである。しかし勝つたとて喜んだやうな顔もせず、不相變まじめである。勇氣や膽力は自然に出るものではない、修養がある。その修養は運動に由るが、又敢爲の冒險にも由るのである。例へば印度に虎狩りに行つたり、アフリカに獅子狩をしたり、或

は高山に氷河を跋渉したりする。一般の人民ばかりではなく、貴族、皇族にもそれをする人がある。皇太子も印度に行かれると、大抵虎狩をされる事になつて居る。従つて又奇禍に罹ることもある。何處の山で誰が行衛不明となつたとか、誰が虎に肩先を噛まれたとか、誰が水に溺れたとかいふやうな記事が、新聞にもよく出て来る。同じ死ぬのでも、猫入らずを飲んで死ぬのとは、大分性質が違ふ。アドベンチュアーは言はば一種の武者修業で、若い時に之をやつて度胸が据つて、それから政界なら政界に乗り出すから、何んな事があつても冷静に、ビクともせず仕事をする。かゝる事の爲に誤つて命を失へば、その人の不幸で氣の毒であるが、それを恐れて居たならば、今日の英國は見られなかつたかも知れない。固より登山探検等には、念には念を入れて十分慎重に準備し、實行すべきはいふまでもない。しかしそれを恐れて仕ないのは、衝突を恐れて汽車に乗らないやうなものである。日本でも封建時代には書生は刀を挿し

て、随分冒険もやり、又少年結社などがあつて、種々の膽力の修練をやつたものであるが、今の學生には、それに代るべき鍊膽の法がない。ハイカラの蒼白いしやなくしたやうな者ばかり多くなつては、いくら本を讀んだつて、駄目である。我が國にも海に山に大にこの敢爲の精神と體力とを養ひたいものである。因に日本中部の高山、飛驒、信濃、越中境の山々、即ち立山、槍ヶ岳、白馬山等に日本アルプスの名稱を興へたのは、英人チェンバーレン（四十年程前のこと）である。英人は日本に來ても直ぐ山に登つたり、川を下つたりしたが。英人には運動はもはや一種の本能のやうになつたのであらう。元來アルプス Alps といふのは、高い連山の意義（語原はケルトの *alt* 又 *alp* より來たものならんといふ）である。それ故アルプスは南部歐洲に限らず、スカンヂナヴィア北米、アビシニア等のアルプスもあるのである。

## 第五章 フランスの國民性と運動競技

### 第一節 フランス人の氣質

フランス人はラテン民族であつて、その特質を具へて居る。即ち氣輕で、陽氣で、熱情的で、感激性に富んで居る。快辯で人づき合ひが好く、談話がすきで、社交を愛する。感情が強いから偏し易く、冷熱の變化が多く、政治家でも變り易くて、内閣の更迭でも頻繁である。フランス人は古代ギリシヤ人と共に最も光榮グロアール、名譽を重んずる國民である。國歌「マルセイエーズ」には、「光榮の日は來れり」の句がある。名譽の爲には死も辭しない。侮辱はその堪へざる苦痛である。決闘はフランス人の花とさへ言はれて居る。愛國心が強く、一朝事有る時は、その熱情と相待つて、驚くべき事を遣りつける。しかし切尖は強い

が、永くなると飽いて鈍ぶる事もある。その邊は餘程日本人と似た所がある。フランス人は英雄崇拜者であつて、偉人が出ると極端に崇拜する。そのナポレオンの崇拜し方は、他國人には想像できないほどで、巴里に於けるその墓はすばらしく壯麗なものである。獨り軍人のみならず、文人も科學者も偉い人間は皆崇拜される。ビクトルユーゴー、バスマールの如きこれである。「マルセイエーズ」の作曲者 Misaie も、國葬せられて、祖國の偉人 *les grands hommes de la patrie* の一人となつた。先年亡くなつた女優サラ、ベルナルの如きも、佛人崇拜的であつた。人民が一般に劇的であるから、一時の人氣者に對しても、熱狂してこれを祭り上げる。拳闘家ジョルジュ、シャルパンチエーの如きも偶像化された者であるし、一九二〇年オリンピックに於ける五千メートル競走の優勝者ギルモットに對する彼等の異常なる舉動（群集の爲に胴揚げされつつ場内を一周した）の如き、よくこれを語るものである。

かやうに佛人は崇拜家であるから、團集的仕事にもリーダーを要するので、リーダーその人を得れば、彼等は驚異的の事をする。古くはナポレオン、近くはジョッフル將軍の如き、人氣あるリーダーは、軍隊を非常に強いものとする。しかし佛人は盲目的ではない。ドイツの兵卒は唯上官の命に従つて機械的に働くのであるが、フランスの兵卒は當面に於ける自己の地位を知り、目的を理解して働く。つまりデモクラチックなのである。上官と兵卒とが互助的提携的である。佛人は自主自由なる英人と、獨斷服從的なる獨逸人との中間を行くものである。

フランスの親は子供を非常に愛し、その執着心が強い。女の子は勿論男の子でも、親はその行末を見届け、一生涯暮らせるまでの世話をし、準備をする。従つて親の負擔が大であるから、さう澤山子を生む譯に行かない。先づ両親に二人の子供が止まり位である。それ故佛國は人口は殖えないで、却つて減る傾

のあるのは、國としては心細い事である。その代りは國民の一人一人に手がかり、費用がかゝつて居るから、戦争などで、その一人を失ふことは、他國の一人よりも平均して損失が大である。親が子に盡すことが多いだけ、それだけ親の干渉も強いので、子もよく親の命令指導に従順である。家庭で親にリードされた佛人は、社會に於てもリーダーを要求するのは自然であらう。

## 第二節 フランス人の教育と運動に對する態度

フランス人は元來ラテン系の民族であるから、國語の性質上からも古典にも親しみ易く、古典的教養を受けるに都合が好い。加ふるに、歴史的にその文化は人道的色彩の豊かなものであり、且教育には非常に手をかけて居るから、文化國民としては恐らくフランス人は最も洗練されたものである。かやうな國民が、裸一貫の肉體を以て勝敗を争ふ運動競技を野蠻的となし、子供らしいとし

て、一般に興味を有たないのは當然であらう。フランス人は心身の相関といふ事に餘り重きを置いて居らぬやうに見える。スペンサーが、有能な人間は先づ有能な動物であらねばならぬとの絶叫は、英國でも半世紀前には必要であつたのである。

フランスの學校は、暗記主義、試験本位であつて、資格といふ事がやかましい。資格は試験をパスせねば得られない。この試験の各を通過する爲の教科書も凡そ定まつて居る位であつて、社會に出るまでには、種々の試験の關門を潜らねばならぬ。即ち佛國の教育は知的偏重の著しいものである。それで英國では中學時代の生徒が、若い運動家であるところの教師の下に、運動場で、オーブンエーアの中で、自由に活潑に心行くばかり運動して居る間に、フランスの生徒は、室内に閉籠つて書を読み、暗記せねばならぬ。加ふるに教師の監督は厳しく、註文はやかましい。即ち兩國の少年が往來を行くにも、前者は晴れや

かな伸々した歩みを運ぶのに、後者には知的過重に頭を俯向けた、偏託さうな足取りを見る所以である。

大學生となると、一層運動競技とは縁遠いものになる。彼等がかゝるものに興味を感じない。彼等の好むものは、都會の生活であり、社交であり、カフエーであり、會話であり、文學である。婦人との交際は特にその好む所である。巴里の本郷區、カルチエー、ラタンの學生 *students* は、婦人は愛するがスポーツは愛しない。とても、新婦をホテルに置き去りにして、クリケットを見に行くイギリスの新郎の眞似はできない。彼等英國の學生よりは遙かに多くの知識を有し、美術文學の趣味を有するが、スポーツには無頓着である。佛人が英人のクリケットを評したやうに、フランス人は、女が興味を感じないで行かぬやうなスポーツは、はづみがないから遣りもせず、見にも行かないのである。フランスの婦人はホームの人である。一體フランス人にはフランスほど良い

國はないので、フランスは地上のバラダイスである。従つて世界を股にかけて仕事をする事はその不得手である。植民地でも餘り行かないから發展しない。植民地に勤める官吏は、短い年月の中に本國に還つて来る。婦人に至つては特に外國に出るのが嫌ひで、又外國人の妻になる者も少い。フランスの本國にあつて、家庭を世界とし、妻となり、特に母になることが、その理想である。かかる婦人が、又かゝる婦人に育てられ、かゝる婦人を相手とする男子が、スポーツに興味を覺えないのは當然であらう。

### 第三節 フランス人の運動競技

フランス人は肉體そのものだけの競技は、野蠻的又は原始的として好まない運動にも知識が應用されなければいけない。文明の利器を使用する運動でなくてはいけないのである。即ち彼等の好む運動は自転車や自動車の競走である。

空中飛行の競争である。自転車が佛人に由つて創造され、自動車や空中飛行が最も早く佛國で行はれ、その發達を促したのも偶然ではない。この方面では世界的優秀を獲る者が少くない。英人の運動は身體そのものの運動であつて機械を使はない。佛人は運動にまで機械を使つて、腦を悩まして居る。一體に基督教でも舊教の方は、肉體を誘惑の源として輕視する傾向がある事も、スポーツの發展には不利である。フランスはその舊教國である。しかし競馬はなかく盛んである。これは競馬そのものよりも賭けが興味を惹くからであらう。

フランス人はスポーツよりも體操をやる。學校でも體操を課し、都市には體育館が多く設けてあつて、そこへ體操をやりに行く者も少くない。軍隊の體操も盛んなものである。劍術 *L'escrime* (*fencing*) も隨分行はれる。決闘によく劍を使ふもその爲である。ドイツ大學生の劍闘フェンシングは技術の問題でなく、勇氣、耐忍力を養ふストイック的のものであるが、フランスの劍術は技術の巧拙を問ふの

で、日頃大に練習するのである。

テニスも行はれる方で、世界的競技にも参加し、準決勝の邊までは漕ぎつける。これも力よりは技巧に優れて居るのである。特に女子のテニスでは、Len・Lynn嬢の如き、婦人の世界的選手権を獲る者もある。拳闘にも強い者が居る運動競技に於ても、個人的には天才的な者を出すことはあるが、國民全體としては寧ろ無關心の方である。

フランス人は一般に歐洲人としては身體が小さく、敏捷、技巧、熟練を要する競技には適するが、大なる體力や腕力を要する「蠻的」競技には不適當である。彼等は感情が激し易く、克己自制に缺ける所がある。従つて競技に於ても、英人の魚の如く沈黙で、忍耐持久、後ほど強くなると反對に、始めから喧噪であつて、極端に意氣軒昂し、又極端に勇氣沮喪する傾がある。それ故チーム、ワイクには寧ろ不向きである。彼等は屢々大膽にして勇敢なる冒險的闘士である。

が、一度敗北の兆が現はれると、崩潰して收拾すべからざるに至ることがある。丁度ウエリントンとナポレオンが、よく英佛兩國人の氣質を表はして居る。

フランスに於ては、都會の者は、頭が鋭くて皮肉で、知的には益々冴えて行くが、體格は良くない。しかし農夫は身體が頑丈で、底力があり、長途の歩行にも堪へる。かういふ人々の中から、運動競技に於ても個人的に優秀なる者を出すのである。農夫は佛國のバックボーンといつてよからう。

フランスも歐洲大戰後、國民の體育には一層力を用ひ、その普及發達に努めて居る。又オリンピックの競技の成績は從來思はしくなかつたが、これに屈せず熱心に練習して居るから、將來これらの効果は、相當に現はれることであらう。

## 第六章 ドイツの國民性と運動競技

### 第一節 ドイツ人の氣質

ドイツ人は概して頑丈な大きな體格を有し、意志の力が強く、持續力に富んで居るが、野外に於ける自由なる運動競技は餘りその好むところでなく、又長所でもない。一體ドイツ人は規律、統一、精確を好む民である。従つて組織力に富むが、各個人が任意的自發的行動を執つて、能く事を處理するといふのは得意でない。ドイツ人は上長の命令に服従し、多數が一齊に機械的動作をすることに長じて居る。家庭は勿論小學校、中等學校に於ても、訓練の第一義は服従又は従順であることである。これが規律が正しく、上官の命に従つて手足の如く動くところの、精銳なるドイツの軍隊を現出せしめたのである。従つて

ドイツの軍隊には、命令する所の優秀な將軍が必要である。彼等はリーダーでなければ、服従者であらねばならぬ。彼等が勝利を得つゝある間は、彼等は將軍を崇拜し、敗北すれば忽ちその人氣は落ち、或は之に背くのである。歐洲大戰に於けるドイツの將軍の人氣の消長もよくこれを語るものである。これはカイゼルすらも免れる事ができなかつた。

かゝる特性を有する國民が、運動競技に適しないのはいふまでもない。所謂スポーツなるものは、一定の規則の下に、これに参加する個人の最も自由なる活動を要求するものである。臨機應變、機畧縱横、飛び來るボールならボールを扱つて、最もその宜しきを得ねばならぬ。それには機敏、咄嗟の工夫、決斷處理を要する、レソースフルでなくてはならぬ。どちらかといへば鈍重な、命令に由つて機械的組織的に動くを欲するドイツ人には、これは不向である。運動競技でもキャプテンに服従することはするけれども、そのプレーヤーの一人



一人は各独自の活動を最も自由に行ふのである。これは積極的であり、彼れは消極的である。

## 第二節 ドイツ人と體操

かやうな譯で、ドイツでは運動競技は榮えない。その代りに體操が盛んである。體操はドイツ人の氣質によく合ふものである。體操を組織的に學校生徒に行はしめた者は、グーツムーツ GutsMuths (1759—1839)で、一七八五年來の事である。次いでドイツ體操の父といはれるヤーン Jahn (1778—1852)が出で一八一〇年にベルリンで學校の男の子を野外に引率して、體操遊技を行はしめこれにツルネン Turnen (體操)と命令した。ヤーンは又種々の體操の器械を造り始めて、これを使用し、體操の種目をも殖やした。爾來體操の振興運動は漸次擴まつて來たが、學校との直接の關係はなくなつて、青年が體操を行ふやう

になつた。ヤーンは最初から愛國的動機から體操を行つたのである。(ヤーンはこの精神を以て一八一〇年に、有名な「ドイツ國民性」といふ書を公にした。)その間には政變があつて、政府に由つて體育組合は廢止され、ヤーンも禁錮された事もあつたが、一八六〇年來體育組合は政治と關係を絶つに至つて、體操は漸次隆盛に趣き、遂にドイツに於ては體操が、英國に於けるクリケットやフットボール、その他の競技の如き地位を占むるに至つたのである。

ドイツでは體操が學校に行はれるのみならず、國民一般が體操に興味を有して居る。今日では體操組合 Turnvereinなるものが、全國到る處にあつて、男女老幼を問はず、多數の國民がその會員となり、日々又は機會ある毎に體操をやつて居る。都市には諸所に體育館 Turnhalle の設けがあり、木馬、平行棒、梯、ブランコ等の體操器械を据え付け、又體操用具をも備へ、屋外には運動場があつて、皆熱心に運動して居る。幼年組、婦人組、老人組もあつて、それぞれ適



ニーヤと館育體のクツネスベ

當な運動をなし、老人は老人相當な運動をして居る。日中勤務する者は、日本にいへば寄席に行くやうに、夕食後ツルンハルレに來て活潑に運動して居る。我が國でも都市には、少くも寄席の數位は體育館があるやうにしたい。ドイツ體操組合の會員はFの字を四つ圖にあるやうに合せたのを、會員徽章として居る。これは Frisch, Fromm, fröhlich, frei (新鮮、信心、喜悅、自由)の頭字を取つたものである。都會ではこの徽章を胸に附けたシヤツにツボンをはいた少年を、よく見受

ける。これらの會員は日頃よく體操するは勿論、記念日その他の機會に、體操祭 Turnfest なるものを催し、都市に四方から數萬の會員が參集して、大體操會を行ひ、行進運動などをする事がある。これは體育以外に、ドイツの國民的意識を強め、愛國的精神を養ひ、協同一致の風を生ずるに、與つて力あるものである。ドイツ人は體操を課業として行ふのでなく、好きで興味を以て、進んでやるのである。體操に由つて、身體の均齊の發達を遂ぐるは勿論、規律、沈着、勇敢、協同、健全なる服従心を養ふ事も出来るので、體操がドイツ國民生活に與ふる影響は甚大である。

體操の外、ドイツ人は、フットボール、テニスなども可なり行ふが、國民的といふほどではない。數年前ドイツの俘虜が習志野に居た時、往つて觀たことがあるが、その殆んど總てが、朝は冷水摩擦や冷水浴をなし、場内の周圍を何度となく徒歩する者もあり、ホツケー、ファウストバル(拳で球を打ち合ふ技)、

テニス等を盛んにやつて居つて、實に元氣旺盛、血色よく、俘虜とは思はれなかつた。運動場もコートも彼等が造つたので、大きな石のローラーも備へてあつて、如何に運動に熱心であるかが見られたのである。その運動するや、少しも寒風にひるまず、熱心に、眞面目に、規律的に全力を振つて行ふのである。これも體操で訓練されたところがあるので、ドイツ人がドイツ體操を生み、ドイツ體操が又ドイツの國民性を陶冶するに、如何に有力であるかを示すものである。

### 第三節 ドイツの學生生活

英國では運動競技は、バブルック、スクールや大學がその源で、學生がこれに多大の興味を有し、學校生活の要部を成すものであるが、ドイツに於ては、學生はスポーツには殆んど興味を有しない。英國では、大學の各カレッジが、各

自のフットボール及びクリケットのグラウンドを有して居るが、ドイツの大學には運動場はないやうである。學生は運動場で競技などをするよりも、室内の生活に興味を有する。それはビールを呑んで、歌を唄つて遊ぶことである。ドイツの各大學には、學生の私の組合(Korps 又は Verbindungen)が大概十幾つ位歴史的に出来て居て、各會館を有し、組合に加入せる學生は、常にこゝに集會して暮らす。先輩もやつて来て、こゝでドイツ學生の氣風も作られるのである。組合には各特有の赤、青、白等の色の帽子があつて、その組合の學生は、大學にもその帽子を冠つて出入して居る。一體ドイツ人はよくビールを飲む。ビールを飲むと、生理的に一層渴を感じるのので、一種の病的現象だと、「Der Sport」の著者ヘッセンは言つて居るが、兎に角よくビールを飲む。特に大學生は盛んに飲む。學生組合の會館などでも飲むので、それには儀式もある。従つて室内に在つて、情趣ある所謂ゲミュートリヒ gemütlich の生活を愛するから、野外

で運動競技をすることは好まないのである。「學者は室内のものだ」「Der gebilligte Mensch gehört in die Stube」とは、よくその真相を語つたものである。ビールを多く飲むと脂肪が多くなつて、身體が重くなり、心臟も脂肪で壓せられて息切れがし、無精になるから、運動競技などには向かない。尤も百年來の體操と兵役とが、これを緩和して、多少身體を常態に復する傾はあるが、やはりドイツの上流の人は眼鏡を懸け、腹部が肥滿し、ビールの影響を受けた心臟 *gebrillt, fetthändig, und bierherzig* の所有者たることを免れない(尤も大戰後は、上流社會も生活困難の爲、以前のやうにはあるまいが)。ドイツ人は力が強く、腕と肩との筋力が特に強いが、脚部の敏速を缺き、駆足の如きは概して不得手である(尤も半哩を一分五十一秒六で走つた *Peltzer*、百ヤードを十秒で走つた *Orth* の如き韋駄天も居る)。競技場でも自然トラックよりもフィールドの技に適する。一體に規律に慣らされ、命令によく服従するから、團體的運

動には優秀であるが、或範圍に於て自由の行動の許された場合に最も強い英國の青年又は成人とは、その趣を異にする。ドイツ人には科學的精確や組織力はあるが、自發的臨機の行動に缺くる所があるから、スポーツマンとしては寧ろ不適當なるを免れない。スポーツとビールとは恐らく兩立するものであるまい。その代りに、ドイツ人は室内遊技には強い。世界一流の撞球家にはドイツ人又はドイツ系のものが多い。撞球は科學的精確を要する室内遊技である。又バスケツト、ボールも強い。比較的個々のなるクリケットやベースボールを喜ばないで、一層團集的結束的のチーム、ワークを要するフットボールを好むもの爲であらう。

#### 第四節 メンズール

ドイツの學生生活に於て、運動競技の方面と多少關係あるものはメンズール

即ち劍闘である。ドイツの決闘は有名なものとなつて居るが、學生のメンズールなるものは、意趣遺恨があつてするのではない。意志を強固にし、膽力を練り、尙武の精神を養ふ爲に、一つの組合の學生が他の組合の學生などを行ふものである。然らば學生のメンズールはスポーツかといふにさうではない。對手の身體を劍で傷けて流血を見る如きは、スポーツなるものではない。一種の擊劍で、スポーツ的のところもあるが、メンズールはメンズールで特有のものである。學生の劍闘は既に十六世紀頃からあるので、随分古いものである。大學でも、ゲツチンゲン、ハイデルベルグ、ボン、エーナ等の、地方の古い大學の學生間に重に行はれたものである。大學出身の名士には、學生時代のメンズールの創眼を、顔面に残してゐる者がある。政治家ビスマルクの左の頬の創眼や哲學者クノー、フイツシャアの鼻が多少變になつてゐたのは、その名残りである。

メンズール *die Messur* とは、元來尺度の意味で、測量した面積、即ち劍闘の場所から來た學生語であつて、劍闘に當る語は *Fechten* 又は *Hiebfechten* である。他から侮辱されたとか、意恨の爲にするものは所謂決闘 *Duell* であつて劍や短銃などで生命を賭して行ふものである。メンズールはドイツの學生が劍を以て行ふので、顔や頭に負傷することはあるが、通例生命に別條はない。しかし小膽卑怯の者には出來る事ではなく、竹刀を以てする擊劍とは、相互が一層眞面目になり、如字的に眞劍になるので、その鍛鍊的效果も大である。又これを行ふ者の個性が最もよく分るもので、ビスマルクはメンズールに於ても、既にビスマルクであつたのである。

然らばメンズールの實際はどんなものか。自分がエーナ大學在學中、或組合の學生の案内で、實地見たところは、次のやうであつた。

或年の二月の下旬に、エーナ市の郊外のウエルニッツといふ村の酒屋の一室



ルーズンメの生學大ツイド

で、午前に六回の手合せがあつた。メンズールの對手は Pankant (劍闘者) といつて、或間隔を置いて直立し、その位置から一步も前後することは出来ず、左手は背後に廻はし、右手を高く上げて、頭の上で劍を振ふので、腕と共に打ち下ろすことはしない。劍の *Collier* は凡一メートル位の長さで、細身で尖の所數寸が切れるやうになつてゐる。鏝のところは拳が隠れるほどに圓くかぶさつたやうに出来てゐる。闘士は首には厚く布を捲いて、動脈を保護し、眼と、眼から耳の間を眼



富手の傷負るけ於にルーズンメ

鏡様のものを懸けて保護してゐる。パウカントの左側に介添 *Sekundant* が頭や首を保護して、やはり劍を以て控へて居り正面には審判者 *Unparteiischer* (局外者の意) が居る。さてパウカントが身構へして、劍を頭上に交叉すると、一方の介添が、「メンズールには刃を交はす」 *Auf der Mensur, binden die Klängen* と言ふと、他方の介添が「刃は交はされた」 *gebunden sind* と應ずる。すると審判者が「始め」 *Los!* といふを切っかけに、對手が劍を振り廻し、殆んど無宙になつて

カチャカチャやる。その中に一方が何時切られたか、顔にタラ／＼血が流れるその様子でこれは手當の必要があると見ると、審判者が中止を命ずる。すると介添が横合から、二人の間に斜に剣を突き出して試合を止めるのである。この時介添が怪我をすることもある。實際切るか切られるかの際は、口で中止と言つた位では、遣る者の耳に入らぬことがあるものと見える。それで介添が剣を横合から入れるのである。こゝらがお面、お小手をつけて、竹刀で撃剣するのとは氣の入れ方が違ふので、眞劍勝負はまた別な所がある。劍闘中對手同士は無言である。切られても何とも言はない。これはその掟になつて居るのかも知らないが、實際眞劍勝負には掛聲などは出るものではないらしい。盛んに掛聲をするのは、まだ餘裕のある證據であらう。試合ひを中止すると、立合ひの醫者 Paulkatz (卒業期の醫學生) が傷口を検し、應急手當をして、出血を止め、大した傷でなければ、また試合をやらす。間で二度位手當をする事がある。傷に

よつては随分出血が夥しく、白いシャツを傳つて床にポト／＼落ちることもある。それでも大概泰然自若として居る。ドイツの學生にはかやうにして膽力の練られた者もあるのである。メンバーが終ると、負傷した者は繃帶をして貰ひ、絆創膏を張つて貰つたりして、俳諧の宗匠のかむるやうな廂無しの柔かい帽子にかむり變へて、皆と共に酒屋を退散する。この繃帶や膏藥張を頬や鼻の上などにして、常と違つた帽子を着て、町を歩くのが一種の誇りである。

メンバーは法律では禁止されて居たに拘はらず、學生は依然これを行つたので、默許の氣味であつた。歐洲大戰後はドイツの軍國主義が廢つても、以前ほどではないが、今も尙これを行つて居る。(尙ハートもその著「ドイツの大學」の中に、メンバー實見記を書いて居る。J. M. Hart, German Universities.

Part I. Chap IV. Auf der Mensur.)

ドイツでも、運動競技を盛んにすべき事を唱へて居る者もあるが、從來の慣

習もあり、費用も入るし、又教育者にも同意しない者もあつたりして、その實現を見ることはなほ困難であらう。尤も一部にはこれに熱心な者もあり、優秀な技能をもつて居る者もある。

因に記すが、チエコスロバキアの西方の都會ブラーグでは、チエク人が大體操會を催すことがある。これはチエク人の團結を固くし、ドイツ人に對する示威の意味もあるのであるが、なか／＼大規模のもので、數萬の男女が一齊に體操をするのである。又大行進運動も行ふ。平常は體育館に男女老幼が行つて、體操、行進等をやつて居る。かやうにして民衆の訓練が出来て居るから、大勢人出の時も町が込み合はないで、うまく整理がつくといふ事である。

## 第七章 米國國民性と運動競技

### 第一節 米人氣質

こゝに米國といふのは、普通の意味で北アメリカの合衆國を指すのである。一體米國は歐洲から自由を求めた者が移住し、植民したのが、建國の始まりであるから、自由の精神が非常に強い。又舊世界の如く、社會的階級制度といふものが初めからなく、各人が平等で、デモクラチックである。固より貧富、教育の高下に由る多少の區別はあるが、階級といふものはない。従つて人間が伸び伸びとして、蟠りがなく、無遠慮で、公開的で、一本調子で、直情徑行である。國が若くて、人民が元氣で、小面倒な事がなく、舊い歴史や慣習がないから、新しい事が容易に實行せられる。土地は廣し、山河は雄大であつて、自ら



人の氣象を快濶ならしめる。加ふるに外國から運命を新世界に開拓すべく渡來移住した者も多いから、冒險的氣分に富んで居る。それで何でもすばらしい事人の度膽を抜くやうな事が好きで、世界一の事をやらうと心掛けて居る。鐵道橋、摩天樓、デパートメントストア、自動車等、始めて渡米するものを、アット言はせるものが多い。また際涯なき千里の平原、コロラドのグランドキャニオン、ナイアガラの瀑布等、自然を見ても世界一のもものが少くない。かやうに自然と人とが相俟つて、所謂 Yankee を生じたのである。

米人はまた極めて勝ち氣の、負け嫌ひな人間である。門閥や階級に由る優越が認められず、各人平等で、實力あるものがどこまでも伸び得るから、競争心が強い。これが他國に對しても同様であつて、他國でやつて居る事で、こちらで出来ない事はないといふので、他國に優れたものがあれば、自國でもやつて見る。日本の菊が好いといへば、すぐ菊を植えて、立派な菊を作るし、櫻も移

植して、随分春は花盛りの所がある。バーバンクの植物變生は殆んど人間業ではない。世界各國の人が移住するから、各國の文化が輸入せられ、各國がその本國の一部を、米國に持つて來た觀がある。ニューヨークの如きは、ドイツ系の人が百萬も居る。即ちドイツ人の第一の都會はドイツのベルリンで、第二か三の都會はニューヨークである。イタリア系の人五十萬から居る。これもイタリア人の第一の都會はナポリで、第三か四の都會はニューヨークである。シカゴにはスウェーデン人が三十萬居る。スウェーデンの本國でも、人口三十萬なら大きな都會である。かういふ工合で、米國は世界人種展覽會の常設地ともいふべく、米國だけで一つの世界である。それで米國を他の一國と對立せしめるのは當を得ないことがあるので、鐵道の如きも、歐洲全體のものよりも延長が大である。一九二四年の世界オリンピック、ゲームに於ても、米人はレコードを五つ破つた。負け嫌ひの米人が勝敗を争ふゲームに負けられないのは當

然であらう。しかし精神的の方面は、哲學文學等まだ他に及ばない所がある。運動競技は身體と精神の鍛錬を要する點に於て、物心の兩界に跨るものである。それで國民が運動競技に熱心であつて、又それに上達するといふことは、その影響が物質的文化と精神的文化の兩方にある譯である。即ち運動競技が健全に榮えるといふことは、その國の充實せる原動力と將來の隆盛を語るものである。

## 第二節 米國に於ける運動競技の由來

米國に於て學生間に運動競技の盛になり出したのは、五十年來のことである。革命期(一七七五—一八四〇)に於ては、學生のスポーツは、時間の浪費と考へられ、又下等なもので、學生及び紳士に不似合であるとされ、冷淡よりも寧ろ輕蔑されたことがある。一八四〇—七〇年は米國學生間に於ける運動競技の形成時代である。

今日米國で盛んに行はれる運動競技は、ボートレース、フットボール及びベースボールであるが、その中最初に基礎の出來たのは、ボートレースである。一八四三年にエール大學の學生が競漕用のボートを購求して、クラブを作つたのが始まりで、一八五二年にはエール、ネビーが組織され、後に大學のボートクラブがこれに代つた。ハーバード大學は、エールより後にボートを始め、一八五二年來兩大學のボートレースがあつたが、標準條件の下に、レースを始めたのは、一八六四年からのことである。それまでにハーバードの方が勝が多かつたから、一八六九年にハーバードが選手を英國に送つて、オクスフォードと競漕したが負けた。しかしエール、ハーバード兩大學のボートレースは、世間の興味を惹起し、新聞も盛に書き立てるやうになつて、競争も激しくなつた。ベースボールの組織は、ボートよりも遅く、一八五八年にプリンストン大學に最初の正規のナインが出來、翌年アムハースト大學に、一八六五年エールに

出來た。ハーバード對エールのベースボールの常例のマッチは、一八六八年からである。その第二回のマッチには四十一對二十四のインニングスで、ハーバードが勝つたといふのに據つても、まだその技の幼稚であつた事が分る。

フットボールはまだ十分形を成さないながらに、革命期以前から、カレッジの娛樂の一種となつて居た。(カレッジ Collegeは、總合大學、單科大學、高等の學校の總稱として用ひる)。一八五七年プリンストンにそのクラブが出來たが間もなく廢止され、一八六四年に復活されて、一時すべてのゲームス中最も人氣あるものとなつた。エールでは一八七〇年ラグビートの一出身者に由つて起され、七十二年その組合が出來た。この時代にはゲームの形式が區々であつたが、一八六七年にラグビー式の規則が、カレッジ間に正式に採用されることとなつた。運動競技は、一八七〇年から、カレッジ、ライフに於て、その地位を認められる事となり、ポートルースはハーバード對エールが行つたが、その競争は激甚

となり、これを緩和するの論さへ、新聞などに出た。ベースボールも東部の一流の大學で行はれるやうになつた。フットボールは地方の大學の學生には可なり興味を以て迎へられたが、まだベースボールほどではなかつた。

### 第三節 運動競技の現況

運動競技が米國の學生生活に於て最も顯著な地位を占むに至つたのは、前述の如く五十餘年來である。公衆の大部分は、高等の學校を、唯殆んどその運動競技のレコードに由つてのみ知つて居るので、學生間の時事話題の大部分は、この事に關して居る。スポーツの優秀なキャプテンは、そのクラスの最も人望あり勢力ある人で、若い學生の理想である。

今一八七〇年の學生間の運動競技の有様を観ると、この年ハーバードとエールがポートルースを行つて、前者の勝に歸し、その後他の東のカレッジも加つて

競漕をしたが、故障が起つて中止される事になつた。この兩大學は一八七六年から、又之を始めて今日に至つて居る。これが秋に於けるフットボールのマッチに次ぐ、大切な運動界の出來事となつて居る。ボートレースは東部の六、七のカレッジ間でもやつて居るが、餘り廣くは行はれて居ない。

ベースボールは米國の國技であつて、最も廣く行はれ、どのカレッジでもやらの所はない。獨り學生のみならず、米人一般に最も人氣のあるもので、それはカレッジの學生間に持て囃やされたのが與つて力がある。野球に多くの職業團があつて、我が國の角力のやうに興行し、その爭覇戰の如きは人民に大なる緊張を以て迎へられるものである。野球はスポーツとしては最も早く我が國に輸入せられ、又最も廣まつたものであつて、今日は米國から學生(時に職業團)のチームが屢々我が國に渡來するし、我が私立大學の學生も渡米して、米國のカレッジと競技する事のあるのはよく人の知る所である。その本職の優秀な者は、

高給を以て諸方のチームから招聘せられ、全國の人氣を一身に負ふので、ホームラン王ベープ、ルーズの如き、米國は勿論、我が國の兒童走卒すらも知つて居る程である。野球は春と夏に行はれ、都會と地方を問はず、殆んどすべての青年がやるので、ミュンスターベルグに據れば、暖い各土曜の午後には三萬以上の場所でマッチがあり、五百萬位の人が見て居るのである。即ち場の周圍は勞働者、僧侶、店屋の小僧、大學教授、洗濯屋、百萬長者、誰でも、社會的相違の考へ得られるビジネス界から解放されて、平等一如の興味を以て、マッチを見て居るのである。

フットボールは、特にカレッジの競技 the college sport par excellence である。それが形成されたゲームとして、カレッジに人氣を得るに至つたのは、一八八〇年からで、始めは東部だけであつたが、一八九〇年以來全米のカレッジがこれを採用し、中等學校にも擴まり、小學校でも行ふ地方が少くない。地方の學校の

競技は地方に於ける重要な出来事となつて居るが、特に一流の大學間の競技は、國民的重要事件と見なされ、その詳細は全國隅々まで電報せられる。これを行ふ重なる大學は、東部ではハーバード、エール、プリンストン、ペンシルヴァニア、コーネルの五大學であり、西寄りの中部では、ミシガン、ウイスコンシン、ミネソタ、ノースウエスタン、シカゴが一流のグループを作つて居る。その他西部、南部の大學間にもマッチを行ふ。

米國でフットボールが一般に人氣のあるのは、その身體的争闘の要素が多分にあるに由る。米國のフットボールは實に猛烈を極めたものである。ただ足で蹴るばかりではなく、ボールを手にして、ゴールラインの後方に運んで行つて地に着ける、所謂タッチダウン touch-down の場合の如き、兩軍が入り亂れ、二十餘人が一つの肉團となつて揉み合ふ様は、實に猛烈なものである。それで怪我人も出る。出るが割りに少いといつてすまして居る。これではなければ、米

人は遣つたやうな氣がせず、見たやうな氣がしないのであらう。即ちローマの劍士の格闘、現代力士の拳闘と同じく、人間の最も強烈な本能の一つ——争闘の本能——に訴へる所のものであつて、冒險的な、強烈な刺戟を欲する米國人には、最もふさはしい競技である。それでプレーヤーは、頭、肩、膝等に保護する物を着けて、身體の何の部分から先きに倒れてもよいやうにして居る。平常の練習にも倒れる練習をして、肩からでも頭からでも先に倒れて見る。規則を知らぬ者が始めてゲームを見たならば、唯揉み合ひして、大喧嘩が始まつたかと思ふ外はない。フットボールは複雑で科學的のところがあるが、大學のマッチを見に来る大群集の多くは、刻々何が起つて居るかが分らない。唯その壯烈癡狂を喜ぶのである。即ちこの方はベースボールと違つて、民衆はやるよりも寧ろ見るのである。フットボールは大學が本場であつて、特にハーバードとエールのマッチの如きは最もセンセーショナルなもので、國家的重要事件として數萬

の觀衆を呼ぶのである。オルター、キャンプはフットボールを戰爭に比較し、そのコーチャーも將軍も共に策略と訓練の問題に頭を悩まし、敵を敗北せしめねばならぬものとして居る。フットボールは、他の競技よりも一層學校に限られたもので、ベースボールの如く、職業とはなつて居ない。それが一般に好意を以て迎へられる一つの理由である。

トラック及びフィールドの競技も重要なものである。既に一八七二年に組織的に行はれた競技のレコードがあるが、ボート、野球及び蹴球よりも日が新しく、一般の興味を惹くことは少いが、これを野球以上におく學校も少くない。多數の學生がやれるといふ利益もあり、萬國競技會にも競技の種目に入るのであるから、この方を好む者もある。

#### 第四節 運動競技の練習

以上四部の競技はカレッジ、スポーツの司ツカサであり、カレッジの地位は、これらの競技に於ける伎倆に依つて決定されるほどである。従つて一流の大學となると各理想的の運動場や體育館を有し、立派な専門的指導者が多數居て、學理と實際に由つて嚴密なるコーチを行ふ。運動競技は唯勝つのみが目的でなく、これに由つて品性を陶冶し、立派な人格者を作成せんとするのである。故に米國の大學に於ては、運動競技は學校の重要な教育の手段である。これは英國に於ては以前よりさうであつたが、米國でも近來その傾向が著しくなつた。それで體育指導者には、その技に通達するのみならず、又立派な人格者である人を物色して、これに任ずる。例へばシカゴ大學のスタグ教授の如きは、總長に次での位置を占め、學生に衷心から畏敬せられて居る。又數年前來朝したインヂアナ大學の野球チームを統率せる教授の話によれば、同大學には男女學生別々に體育館があり、體育指導者が十五人居て、専ら學生の體育に従事し、その中には

總長を除いては、何の教授よりも高い俸給を受けて居る者があるとのことであつた。以て如何に體育家が優遇せられてゐるかが分る。我が國のやうに、學生の先輩がコーチするやうな片手間のものではない（古代ギリシヤに於ても、體育家は最も名譽ある地位にあつた。）さうして設備が完全で、インドアの練習も十分出来る體育館もあり、身體發達の理想的標準が示され、學理的に又實驗的に周到なるコーチを爲し、學生の睡眠食物嗜好品等にも有理的規制をおいてこれを實行し、又學生も練習に熱心であるから、優秀なるアスリートを出し、萬國オリンピック、ゲームスにも、レコード破りの選手を多く出すのも偶然ではない。これは第一に人の問題であるは勿論だが、又富の問題である。財力の充實せる米國なればこそ、設備練習にも遺憾なきを得るのである。ローマは一日にして成るものではない。日本が殆ど見るべき準備なしに、一九二四年のオリンピックにも、あれだけに行つたのは結構な位である。今後は十分とはいか

ないでも、せめて相當な設備もし、有理的な練習を行つて、極東だけでなく、世界のオリンピックに於て、一つでも二つでも月桂冠を得るやうにしたいものである。

以上四部のいはばカレッジのオフィシアル、スポーツの外、ローンテニスが随分行はれ、優秀な伎倆を有する者が少くない。特にデビスカップは一九二〇—二六年來米國が保持する程である。テニスは多數が行ひ、健全なる運動としては、冒險的な刺戟の強い競技よりも、一層適當なものである。その外歩行、射撃、自転車、ボロ、ゴルフ、クリケット、水泳等のクラブを有するカレッジもある。これらは時によつて隆替があり、外部の評判に由つて動くこともある。

#### 第五節 運動競技に伴ふ利弊

運動競技は最も快適な喜びであり、楽しみであるは勿論、立派な、彈力ある、

自在な身體を作り、機敏、精確、變通の力を養ひ、強固なる意志を鍛へ、忍耐  
持續、協同、服従の習慣を作り、卑怯を忌み、潔く行動する氣風を生ずる等、  
身體上、精神上又品性上に及ぼす效果の甚大である事は、既に述べたことであ  
るが、又これに伴ふ弊害もないではない。

米國はその國が元來敢爲冒險の上に成立したものであるから、その傳統を襲  
うて、負けず魂が強く、運動競技に於て、ことにその特性が發揮せられ、勝つ  
た方がえゝ組である。其の爲にカレッジのゲームでも、フットボールにはどうし  
ても勝たねばならぬといふので、時に策略や外交が弄せられ、又本職のプレー  
ヤーを加へることもある。學生の過勞、神經の異常なる緊張を來すことあるは  
いふまでもない。これは新聞が餘り煽動的に、どちらが勝つかを問題にして、  
書き過ぎるのにも由る。選手については、新聞にその肖像が載せられ、傳記が  
掲げられ、伎倆に對する専門家の批評、父親の感想等が記されて、大懸賞附の

拳闘家や本職の野球選手や、自轉車競走選手と同列に置かれて、社會の注目の  
的となることがある。その結果、選手の引張り合ひ、法外の金錢の支出、チー  
ムの過度の練習、競争の激烈を來すこととなる。キャツプテンは、中等學校か  
ら、又は地方の小カレッジから、有望な者を學校に招致することに苦心し、従つ  
て唯ゲームをする爲にのみ何年も在學する者もあり、中には金錢上其の他の優  
遇を受ける者もある。選手及び競技に關する費用は莫大なものであるが、公衆  
のゲームに對する興味は、ゲームで大金を獲ることに困難を感せしめない。而  
してその金が少數の者の爲に贅澤に使用せられ、一般學生の體育の爲に、何等  
の利益を與へないこともある。それで前ハーバード大學總長故エリオットの言  
つたやうに、ボート、野球及び蹴球の練習とゲームの爲に、學年の餘り大なる  
部分、一日の餘り多くの時間が取られ、學問の方がお留守になり、教場に出て  
も學科に氣が向かない。學生の神經力は、激しい身體の運動や、數多きゲーム



の興奮の爲に耗盡される。このやうになると、一種の身體労働者となつて、精神的勞作が厭になり、終身正常な状態に恢復しないこともある。特にフットボールの如き激烈な競技は、亂暴や不正を行ひ、相手の身體に危害を加へて、競技の能力を奪ふことすらある。エリオット曰く、最も男性的スポーツに於て、危険は最少限に減せられたが、フットボールは、その最近の發展のために、危険を益々多くした。死の危険は餘りないが、身體の不具は斷じて増加した。筋轉、骨折、捻挫、腦充血、失齒、關節擴大及び強直これである。フットボールに對する異存は、それが危険性を存するからでなく、危険が法外で重大であるからである。併しこれは米國式のフットボールであつて、普通のA式、ラ式では、かゝる身體上の危険は少い。何分米國式のは激烈なもので、餘程身體の頑強な者でなくては出来ないし、又日本人は米國人ほどゲームに強烈な刺戟を求めないから、恐らく我が國には行はれまい。

英國に於ても、オクスフォードやケンブリッジは、怠惰な生活を欲する者の行き所とされた位で、學問はそち退けて、スポーツばかりやつて居る學生もあるが、米國でも同様で、智育を輕んじ、智的作業は、生活の要部でないと思つて居るやうな學生もある。競技的理想の優越は、「カレッジは要するに、富有なる者の子弟が、退屈凌ぎに、強いて少しく書を読み、眞面目な努力を爲さず、後年の義務を果す爲の有用な練習を行ふことなしに、三、四年、時には五年を暮らす設備である」(タウシグ教授)との考を、下層の人民に強く印象したこともある。

かゝる弊害は一八九〇年までは甚しかつたが、これ以來漸次健全な状態に復し出した。それには種々の制限が設けられたからである。例へば、學生は毎週一定の時間授業を受けねばならぬ。學科の成績思はしからぬ者は、大學の運動チームに加入できぬ。入學した最初の一年も同様である。競技の爲に報酬を受

けた者は、代表チームに入れない。四年以上大學チームに在ることを許さない等である。又良い大きなカレッジには、人格の立流なコーチャーが居て、監督指導がやかましく、學生はよくこれに服従し、紳士的、スポーツマンライクにやることを目標として居る。競技に必要なものは、潔いといふ事である。Fair Playである。卑怯や、穢いやり方は唾棄すべきものである。米國でも良い大學では皆このフェアア、プレーといふことに重きを置き、負けてもきれいに負け、勝つてもきれいに勝つ事を勧めて居る。つまりその争や君子であつて、勝敗共に正々堂々たれといふのである。一九二二年春インヂアナの野球チームが我國に來遊した時も、米國大統領は、その意味の言辭を以て、一行を送つた。野球シーズン前に出發して、練習不足の爲、成績は思はしくなかつたが、フェアア、プレーをして歸つた。今日米國大學生の理想は、學問が優秀で、且立派なアスリートであることである。唯學問ができるだけでもいけないし、唯のアスリー

トでもいけない。この兩方を兼備した者でなくてはならないのである。かゝる人は社會に出てもよく用ひられ、重きをなす人である。

タウンシグ教授は、對校競技は、身體練習の精神から行ふべきもので、競技の爲に身體を練習するのではないと言つて居る。しかし多くのカレッジに於ては、競技の動機は體育の爲でなく、他校に勝つて學校の名を顯揚するにある。しかし學校としては、學生が一般に運動競技に興味を以て、體育の爲に、舉つてこれを行ふやうにならねばならぬ。英國の學校の如きはそれであつて、學生が一般に運動趣味を解してこれを行ふのであり、米國人も一般に身心の鍛鍊の爲に樂しみの爲に運動するので、必ずしも對手に勝つを目的としてゐるのではない。コンテストの勝利は身體練習の結果の一つであつて、勝利を目的として身體を鍛るのではない。勝利は身體練習にはづみを與へるに過ぎないのである。これこそ始めて運動競技が、國民生活の肉となり血となり得るのである。

米國では女子もなか／＼運動競技に興味を有し、激烈な競技はしないでも、それを鑑賞する力をもつてゐるから、男子の競技を、女子が多数見に行き、女子に見てもらはねば、男子もはすみがない程である。米國に於ける女子の勢力は、政治上、社會上強大であつて、それが又運動界にも及び、女性第一ともいふべき力をもつて居るのである。女子も男子のする大概の野外運動や競技を行ふ。即ちバスケットボール、ホッケー、テニス、ゴルフ、游泳、ボート、乗馬、スケート、スキー、登山、テント生活等は皆その行ふところで、又選手權を争ふこともある。大學にも、男女別々に立派な體育館を有するものが少くない。それで米國の女子は快活で、蟠りがなく、のび／＼して居り、體格が立派で彈力があり、又敏捷であつて、我が國の女子と比較して非常に違ふ。それは體育の賜物であるに違ひないが、一つは家庭や社會の生活にこだはりがなく、杉のやうにスク／＼と伸び得るからである。日本のやうに、家庭でも社會でも、女

子が、蠅牛が角を出しては引込めるやうな生活をしては、人間がいちけて、とても伸びるものではない。それで女子にも體育を盛にし、運動競技も女子相當のものを奨勵普及すると同時に、家庭や社會にのび／＼と生活することが出来るやうにしなければならぬ。

## 第八章 我が國民性と運動競技

### 第一節 我が國民性と國技

日本の山水は峻険でゆつたりしたところがない。山でも傾斜が急で、大雨でも降ると一度に水を流す。河でも急流が多く、大水が出たかと思ふと、ちぎりに引いて、河原が出る。四季の變化も多く、雲霧の集散常ならず、天氣も變り易い。つまり、ラフカチオ、ハーンの言つたやうに、日本の自然の特色の一つは無常性 impermanency である。自然に化育せられる國民の性質にも、そんな所があつて、日用品でも永持ちのするよりも、しばらく使つて毀れれば棄てて、新しいのに取換へる。家屋、垣、どぶ板、道路、割箸、竹の皮、草履、數へれば幾らでもある。要するに現在の、その場限りで、明日は明日の風が吹くと

澄ましたやうなところがある。

それで國民は感激性が強く、熱すると非常な事をもやるが、冷めることも早い。戦争でも始めに勝つ必要がある。日本では特に士氣の振ふことを貴ぶのはその爲である。英國人は、戦争で勝つても、餘り興奮せず、勝つたやうな氣色をしない。歐洲大戰で出兵しても、いよく戦場に臨むまでは、後方では不相變お國のフットボールなどをやつて、戦争があるとは思はれないが、日本人は出兵となるとから興奮して、戦争の前から、内地から決死の色を浮べて緊張するのは、所謂士氣が振ふので、好いことでもあるが、エネルギーの無益の消耗となり、肝腎の時に早く疲勞することもある。英國では運動狂の居る事は日本以上であるが、彌次が居ない。遣る者も競技中決して聲を出さない。それが米人となると、ベースボールをする時でも、互に掛け聲をする。又側に注意する者が居て、雀のやうに囁つて居る。見物人もまた騒々しい。英人の競技にはそ

れがない。肺臓がないと思はれるまで、如何なる變化、クリシスに際しても、黙つて、熱心に奮闘して居る。見物人も同様で、應援の聲一つ出す者もなく、勿論太鼓やブリキ罐を鳴らす者もなく、敷布の旗を振る者もない。皆眞面目に情けなさうな顔をして、黙つて見て居る。それで外國人には、あれで面白いのかと疑はれる。英人がゲームに應援せず聲を出さないのは、一般に英人は眞面目であるから、遊ぶにもやはり眞面目なのであらう。さうして熱血質でなく、膽汁質であつて、物に動じないからでもあらう。しかしさすが聲は出さぬが、手に汗を握るやうな時には、溜め息をつくから、時には數萬の溜息が、風が樹を掠めるやうな音を立てる事もある。それで數萬人居ても咳一つ聞えぬ。勿論見物人にも最良はある、應援もする。しかしそれはチームの記號であるところの色の造花や布を、上衣などに附ける位の事である。

日本人はベースボールを始め、主に競技を米國から輸入したから、騒ぎ方も

米國式であり、選手の注意を英語ですらもやつて居る。もし範を英國に採つたならば、ゲームに於ける態度、應援の仕方、今日とは違つたかも知れない。しかし日本人はお祭騒ぎの好きな國民であるから、競技でも御輿を揉む格で騒ぐのが、國民性に合ふのかも知れない。自分としては、選手も見物人も、一層底力のある居り合ひが欲しいと思ふのである。これは學校の運動會や、記念祭についても、同じ希望をもつて居るので、今までのやり方はあまり騒々し過ぎ、彌次過ぎる。それが名物のマッチや、年中行事となるほど甚しいのである。我が國では觀衆の訓練もまだ必要である。

さて我が國固有のスポーツといへば、何といつても相撲(角力)である。既に凡二千年前垂仁天皇の御代に、野見宿禰が當麻蹶速を相撲で蹶殺したといふ、古代ギリシャのオリンピック、ゲームスにも比すべき古いレコードがあるのを見れば、相撲は餘程早くから行はれたものであらう。その後聖武天皇の時、相

撲節會ヒチエを置かれ、一時の斷絶はあつたが、四百餘年も續き、足利時代からは、神社佛閣等建築の費用を集める爲に、勸進相撲といふものが始まつた。徳川時代には相撲は殊に盛に行はれ、諸侯にはお抱力士を養つたものもある。爾來相撲は今日に至るまでも盛んで、名さへ國技館といふ相撲専門のコロセオさへ出來て居る。相撲には、かやうに古來プロフェツショナルが居るのみならず、國民一般に相撲が好きで、子供の時から、疊の上から相撲をとつて居る。祭禮、祝典の折などには、村でも青年や大人が相撲をとるし、學校では幼稚園の幼兒から大學の學生までとる。かやうに由來が古くて、津々浦々まで行はれるスポーツは、恐らく世界の何處にもあるまい。眞に國民生活の一要素を成すものといつて可からう。なほ我が國の相撲は勝負が早く、時には二三秒で濟むこともあるが、西洋の相撲は兩肩を床の上に着けられたら負けになるので、始から四ツ這ひのやうになるのもあり、抑へ込みに行くのもあつて、勝負が長く、一時

間位かゝることもある。こゝにも勝を咄嗟に制するのと、耐久的なのとの國民性の相違があるやうである。

相撲に次いで古來行はれたものは、劍道と柔道である。これは封建時代にあつて、主に武士の間に行はれたもので、プロフェツショナルであり、ゲームの爲にゲームをするといふ事とはやゝ趣を異にする。なほ士人以外にも、多少これをやつた者もある。尤も徳川時代三百年間は太平續きで、

汗水をたらして習ふ劍術の役にも立たぬ御世ぞめでたきであつたから、多少スポーツ的のところもあつた。

封建制度が廢れて、明治の御代となつては、廢刀令が下り、常備軍が出來た爲に、劍道、柔道も以前の榮はなくなつたが、それでも日本の各處に道場があつて可なり行はれて居る。加之近來男子の中等學校に必須科として課するものも多くなつたから、多少盛り返した傾がある。しかしそれは強いられたる課業で

あつて、果してスポーツの如く自發的興味を以て、皆が行ふかは疑問である。但劍道、柔道は一層精神的のものであるから、相撲や西洋のスポーツとは、その趣意を異にするところもある。

## 第二節 今日行はるゝ運動競技

劍道、柔道にしても、相撲にしても、二人の對抗勝負であるが、西洋の競技は多人數合同して、協同的動作を要する。二人勝負に於ては、勝敗の運命は自己一人の覺悟伎倆に由るので、孤立無援だけそれだけ眞劍味を増す。古來種々の流派が出来、祕傳極意などのあるのも、その爲であらう。ところがチーム、ワークとなると、連帶責任で、前者の個人的なるに反して、社會的である。一體我が國の生活は從來は個人的であり、階級的であつたから、勝負事までもさうであつた。町人は勿論、足輕でも、通例は武士と試合は許されなかつた。

集會、演説、俱樂部など、團集的の催しは、西洋から輸入されたもので、それと共に團集的、デモクラチックの運動競技も輸入せられたのである。即ち生活が西洋化する程度に於て、スポーツも益々西洋風のもものが盛になるのは當然である。歐洲大戦後に於て、我が國のこの兩方の發展は目覺ましいものがある。

今日新聞は相撲の記事は載せるが、それは年二回の本場所の時位のもので、他は年中杳として消息を斷つて居る。劍道、柔道に至つては、講談的讀物として雑誌に出るか、新聞の明日の催し欄に一二行出る事が稀にある位で、相撲よりも一層關心しない。新聞は人氣ものである。世間の人氣を無視した記事を多く載せれば、自滅の外はない。それ故、世間が興味を以て見る記事は載せない譯に行かぬ。従つて近來ベースボール、テニスの記事は、どの新聞も競つて載せ、大概毎日一段か一段半位は運動記事があり、中にはその記事の詳しいのを特色として居るものもある。テニスの如き、選手の各セットの得點まで、載せ

ることもある。又新聞社が主催して、又は後援して、小學校より高等の學校の對校競技會や、オープンオープンの競技會を催し、これを毎年催しの株とし、なほ遣れるものなきやを氣遣つて、探し出すことに汲々たるの有様は、洵に努めたものである。新聞ばかりでなく、運動競技の雜誌も數々あつて、盛んに運動を鼓吹して居るのは結構なことである。つまり時代が變つて來たので、外來の運動競技に關する興味が、漸次擴まりつゝあるを證するものである。

最近數年來運動競技が盛んになつて來たのは、世界及び極東オリンピックに我が國選手の參加、その彼我成績の比較に由る發奮、世界的選手の來朝示技、米國の野球チームの來襲、米國への試合旅行、我がテニス及び水泳選手の世界的聲價、それに新聞雜誌等の獎勵後援等種々あるが、就中一九二二年春來遊せられた英國皇太子殿下のスポーツマンライクの御態度、我が競技特に四百メートル競走に對するプリンス、オブ、ウエールズ、カップを許されたる異數の特

典、その秋には當時の攝政宮殿下の十種競技に對するカップの御下賜は、我が國青年に非常な感激と奮勵を與へ、一九二二年を劃して、運動競技界は躍進的進歩をなした觀がある。また皇族方にスポーツの御趣味を有せらるゝ御方があつて、自らはせられ、又競技を御覽になるのみならず、その會の總裁とならせらるゝ等のことが、どれほどの獎勵になつたか分らぬ。實に斯の如きは前代未聞の事であつて、益々赤子敬慕の情を深からしめるものである。殊に一昨年夏、秩父宮殿下が瑞西アルプスの數々の高峰を御登攀あらせられたる御壯舉の如き、恐らく從來國民の夢想だもしなかつた事であつて、興國の氣象が油然而して湧き起るを覺ゆるのである。

斯る好惠なる事情と共に、運動競技に向て精進する我が國青年の意氣努力をも認めない譯には行かぬ。實際近來の伎倆の上進は驚くべきもので、各種の競技に於て、續々レコードを破り、殆んど底止する所を知らない。特に水泳に於



ける最近の進歩は驚異的である。この勢ならば次の世界オリンピックに於て、優者を出すことは期して待つべしである。

### 第三節 運動競技と學校

運動競技の選手が、一つの學校又は團體を代表して出場する時は、その學校又は團體に對して強い責任を感じるもので、源氏方を代表して、平家のかざした扇の的に立向つた那須の與一の如き、一種悲壯の感が湧くに違ひない。普通の觀衆は唯面白いものとのみ見るか知らぬが、心ある者は選手の意氣心中に同情して涙ぐましい思ひをすることもある。少くも眞の應援者の心持はさうである。勝つて泣き、負けて泣く。こゝに世間の利害關係を離れた純な清い情景を出現して、その中に思ふさま浸ることが出来る。我利我利の世の中に在つて、しばらくでもかゝる生活を味ひ得ることは洵に仕合せといつてよいであらう。

對外マッチや團體競技といふものは、その學校又は團體に對して、内部の者に愛國心に似た一種の意氣、感情を養ふものである。その學校又は團體といふ意識がはつきりとなり、その仲間の一人であるとの念を強くし、全體を愛し、全體の爲に自己を捧げる精神を養ふものである。これは個人的には社會奉仕の念を養ひ、學校又は團體の繁榮の爲にも有利なものである。今學校のみに就ていへば、學生が他とマッチを行へば、學生の愛校心が強くなるのみならず、特に他に勝つことが多ければ多いほど、學校の根力に於て、一種優秀なるものある事を示すものである。従つて民衆の同情を得、後援を要する事多き私立の學校に於ては、運動を盛んにし、良き選手を養ふことを努め、その競技の成績が重要視せらるゝ所以である。それで學校によると、地方の中學生の鳳雛に眼を着け、卒業の上は、優遇の條件を以て自校に引き入れようとする。かゝる選手は學課の方は第二で、ゲームの練習に大分の力と時間を捧げ、半本職の如くな

ることがある。米國では大學の野球選手が、職業野球團に招聘せられて、本職となることは珍らしくない。それで學校當局者の處置その宜しきを得ないと、種々の弊害を生ずることがある。そこで米國の良い大學がやつて居るやうに、學科の成績の良くない者は、選手にせず、學科と競技と共に優秀な者を理想の學生とすることは、我が國に於ても採るべき方法であらう。又新聞などが、運動の記事を掲げるにも、餘り煽動的にせず、選手に慢心を起させて、生涯をしぐちらせたりする事のないやうにしたいものである。選手は人氣者であるから他からちやほやされ、遂に身を誤るやうなことも限らぬから、餘程自重して眞に紳士的にスポーツマンライクにありたいものである。芝草の上に運動して居る英國の青年に於て、眞のギリシャのオリンピックク、アスリートを見ると、オスポーンは言つて居るが、我國の青年こそはさうありたいものである。

#### 第四節 運動競技と國家

運動競技が學生に愛校心を起させるのは、愛國心と關係あるものである。愛校心は學校といふ一小國を愛すること、それが擴張されて國家となれば、ここに愛國心を生ずるのである。英國人は好んでフットボール、クリケットの如き、團體的競技を行ふ。その一組が協同一致して、他の組に當る時は、仲間は利害關係を同じくし、連帶責任を以て互助的に働くのである。自己を全體に捧げ、衆と共に事を行ふのである。團體競技は我を忘れて全體の爲に戦ふのであるから、仲間の爲といふ念を強める。英國の成功は共同一致して競争者に當るにある。これが海外に於ても英國人が勝利を得る所以である。英國人も國內では互に競争し、利害の一致せぬために衝突することはあるが、一たび外國に對するときは、皆一致して共同の對手に當り、これを屈服せねば已まないといふ

風がある。つまり英國人全體が一つのチームである。英國人は團集的利己主義 collective egoism の國であると謂はれるのもその爲である。

ところが我が國となるとどうであらう。海外植民地に在る者でも、知らぬ日本人が行くと、すぐ隣人同胞の棚下しをやる。共に外國の商敵にでも當ることとはしないで、共喰をして、彼れに漁夫の利を致さしめることがある。(日本人は國家の危急といふやうな場合には、眞に舉國一致であるが、平時の仕事は、拔駈けの功名を争ひ、商工業にしても、政治にしても、小せり合をして一致しない。つまり平時に於ける國家的チーム、ワークが出来て居ないのである。運動競技の訓練は、國家の繁榮の上にも必要である。かういふ意味に於て、我が國に於てもベースボールやフットボールの如き、團體的競技の普及する事を望む次第である。又英國人はフットボールをやるにしても、各その部署任務を守つて、他の領分を侵さない。人が蹴るべきものを、自分が出しやばつて拔駈け

の功名をやるやうな事をしない、自己の義務は飽くまで行ふが、人の権利はどこまでも尊重する。かうなれば競技は最も活きた德育である。

ミュンスターベルグに據れば、米國、特にその西部では、州や市が事業を爲すには、スポーツマンライクの方法とする。一つの州や市が、他の州や市と、フットボールをやる積りで、仕事に於て勝たうと努力し、そこにけちな嫉妬もなく、樂天的精神を以て企業する。例へばセント、ルイスが世界大博覽會を開催しようとするれば、ミソリ州がその首府の爲に熱心に贊助して、實行せしめ他の州や市にその手際を見せるが如きこれである。これがまた州の産業の發展を促すこととなつたのである。政治でも商業でも、スポーツマンライクにやれば、廉恥を重んじ、卑劣を忌み、公明正大に行く筈である。即ち我が國でも、この方面にも、スポーツマン、スピリットが行れるやうにしたいものである。

また運動競技は、これを行ふ者も、觀る者も、その興味は社會的差別を忘れ

て、同等の仲間といふ感情を生せしめるものである。即ちブルジョアも、プロレタリアもない、皆樂天的な氣分で、平等一如の空氣に浸つて居ることができ。それ故我が國でも、階級の疎隔を和ぐる爲にも、運動競技の普及は望ましいことである。實際ブレグランドに集れる人々ほど、同じ心地、同じ氣分に支配されることはないのである。

英國では前に述べたやうに、英本國と海外の領土との運動競技を毎年行ふのを例とする。例へば印度、南アフリカ、オーストラリア、カナダ等から、選手チームが英國に渡來して、本國のチームと、クリケットなどを行ふ。これが本國と屬領との關係を圓滿ならしめ、その理會、親和を得しむるに與つて大に力あることである。互にスポーツマン的に振舞へば、双方に好感を與へるものである。それで我が國でも、朝鮮、臺灣、滿洲等のチームが出来て、内地に試合に來るし、内地からも出かけるやうにしたい。それがどの位双方の感情を融和

し、親密の度を増し、各方面に好影響を與へるか分らない。既にベースボールやフットボールなどには、滿洲や朝鮮のチームが出来て居るが、その土着の人も加つて、各地からのチームが往來するやうにしたいものである。

又英國のオクスフォード、ケンブリッジと、米國のハーバード、エールとの水陸の競技の如きは、國民の體育上有益であるのみならず、兩國民の精神上の融和に與へる利益が少くないので、有力なる外交の手段である。我が國でも近來私立大學のベースボール、チームが渡來して、彼の國の大學とゲームを行ひ、彼からも來るといふのは、かういふ意味に於て甚だ結構な事で、双方の選手も應援者も、將來國家の中堅たるべき學生であることが、一層その意義を大ならしめる。今日の外交は外務省にのみ一任すべきでなく、國民外交が國交の基調となるのであるから、今後ともかゝる舉は、外務當局も成るべく好意を以て便宜を圖るやうにしたい。近來外務省にも運動家が入るやうになつたのは喜ぶべ

き事である。かゝる青年外交家は、外國に赴いては、その國の運動場に入出し、彼の國人の間に立交つてスポーツをするがよいので、外交界の熊谷、清水、原田、高石となるが、とれだけその人望を博し、延いて國交に資することあるか分らない。獨り外交家のみならず、今後のビジネスメンはその事務に堪能であると共に、又運動家でありたい。内地にあつても、外國にあつても、その利益は圖らざるものがあらう。今日會社などでも、外が同じことなら、身體が丈夫で、在學中運動家であつた人を探る所があるのは、賢明な仕方である。ビジネスに従事して居ても、やはり運動はするが宜く、やらずが宜いので、ゲームに出たい時には、成るべく便宜を與へるやうにしたい。これからは、政治家も實業家も、タイプが一新しなければいけない。懇親會といへば、空氣の濁つた室内で酒を呑み、大食することのみ心得て居るやうな事では、到底駄目である。酒太りの脂肪過多の實業家や、アルコール中毒のヨイヨイの政治家など

が、テニスをやり、クリケットをやり、ゴルフをやり、木を伐り、馬に乗り、山に登り、水に泳ぎ、四疊半を千倍した運動場で、青空の下に、バットやラケットを振り、年を取つても腰が曲らず、ぼけず、青年の元氣を持續する歐米の同業者を向ふに廻はして、各方面の競争が出来るであらうか。實際スポーツ以上の若返り法はない。見るだけでも、青年の潑刺たる元氣が移るやうである。運動競技は學生の事のみではない、國民全體の事であり、國家の事である。

#### 第五節 運動競技と世界

日米、又は英米の大學の對校競技の國交上に於ける意義は述べたが、これが世界各國出會ひのゲームとなると、世界の平和親交の上に貢獻することが少くない。古代ギリシャのオリンピック、ゲームスが、ギリシャの割據せる都市や州や、植民地の人民を、一所に會して、ギリシャ民族全體の、換言すれば、

當時の世界の聯合平和に貢献した事は大なるものであつた。一八九六年來再興されたオリンピック、ゲームスにも、その意味の含まれて居るのは云ふまでもない。近來交通機關の發達に伴ふ、各國有形無形の文化の交換は、各國民をして、同じ世界の住民といふ感情を濃厚ならしめた。今日は世界の一箇所に投せられた石は、その波紋を世界全體に及ぼして、どこかの岸をも打つやうになつた。二十世紀に入つてから、萬國會議なるものが非常に多くなつて、各方面に於て、世界が相談を遂げることになつた。最近の歐洲大戰は、如字的に始めての世界戦であつて、各國民、各人種を一つの坩堝に入れて掻き交せた。その結果獲たものの一つは、世界心 international mind である。今日の家族は家庭の城壁内に籠居することが許されず、税も出さされ、種痘もされ、何角と外への交渉、奉仕が多くなつた。その代りには國家社會の惠澤に預ることも多くなつた。國家もその通りで、もはや他國との交渉關係を斷つて、鎖國の夢を見て居る譯に

は行かない。一つの國に勞働爭議があれば、他の國の勞働者が應援したり抗議を申込んだりする。即ち一方國家としての存在は從來の如くであると同時に、他方益々人類が世界的に共同的に生活するやうになつて來たし、何の國にも世界の脈搏を感じるやうになつて來たのである。

再興されたオリンピック、ゲームスが、世界心を喚起し、人類としてのフェロウ、フイーリングを養ふ上に、與つて力あるのはいふまでもない。他の萬國的會合は、多少とも皆各國の利害關係の伴ふもので、自國に不利と見れば、抗争する事もあり、脱退する事もある。必ずしもその争や君子でない。その結果遂には干戈に見えることもある。然るに運動競技は、すべて遊戯に於てさうであるやうに、disinterestedな、即ち損得利害の勘定の入つて居ないものである。従つて其の萬國大會は君子的のものであつて、古代ギリシヤでも、その催しがある間は平和が保障されたやうに、眞に平和の氣象の漲るものである。一九二

三年の極東オリンピックに當つても、支那では我が國に對する政治上の問題から、延いて選手の派遣を中止せよと抗議した者もあつたが、それは問題が別だ、オリンピック、ゲームスは政治とは何等の關係もないといふので、遂に選手を派遣する事になつたやうなものである。今日世界各国が同じフェロウ、フイリング、同じ氣分を以て、損得利害を超越して、和氣鬩々の裡に會合するといふことは、恐らくオリンピック、ゲームスを外にしてはあるまい。かういふ意味に於て、オリンピック、ゲームスが、世界の趨勢の先驅として、世界の協調、人類の平和、人道の實現に貢献することは少々でないと思ふのである。さうしてそれがまた、偏狭でない、健全な愛國心を養ひ、國民の品位を高め、度量を廣め、國民體育の獎勵となることは、固より見逃すべからざる賜物である。(但しオリンピック、ゲームスでも、遣り方によれば敵愾心を起すことにもなるから、その注意は必要である)。

極東オリンピックも、範圍は限られて居るが、世界のそれと同じ影響を東亞の國民に及ぼすものである。それが地を換へて催されることは結構な事で、我が國と支那及び南洋との親善を、一層濃厚ならしめる契機となるを得ば、大なる幸である。

#### 第六節 運動競技の現在及び將來

日本で、今日世界に引けを取らぬ競技は水泳とテニスであつて、今の勢で行けば將來世界に雄飛できぬこともあるまい。長距離競走は、日本では東京高師を發祥地として、マラソン、レースが榮える。極東オリンピックでも、長距離では勝利は皆日本のものであつた。これは身體の持續力を語るものである。日本人は長胴短脚で、餘り身體の比例は好くないが、割りに胸廓が大きい。これは國民のエネルギーのある事を示すもので、マラソンの榮えるのも偶然でなく、

民族の將來ある前提として、洵に芽出度いことである。しかしまだ體力に於て歐米人に譲るところがあるから、今後とも身體の鍛鍊を要する。日本人も米國人同様、あまり負けることの好きな國民ではなく、土に嚙りついても勝ちたい方で、マラソンなども、一つは何くそといふ我慢があるからである。福澤先生は嘗て瘦我慢の説を出されたが、日本人には痩せても枯れても、意氣といふものがある。運動競技にはこの意氣が大切である。しかし唯意氣だけではいけない。身體の攝生に注意し、酒、煙草を禁じ、少くも節し、克己耐久の力を養ひ合理的練習を十分に行ふことが必要である。また長くやつて居る中に會得する「コツ」といふものも大切である。嘗てロンドンで萬國素人陸上競技大會を見た時、ハードルで勝つた青年に就て、あの人は祖父の時代からハードルが上手だと、隣りの人が言つたことがあるが、そこまで來なくては本物にならない。運動競技もトラデショナルになるまでに行きたいものである。英米の古い大學で

は、一家代々同じ大學に入學する者がよくある。かうなると、學校も人も生え抜きになつて、本統のアスリートも出る譯である。我が國でも相撲、劍道、柔道は古來からあるので、極意秘傳もあること故、これを競技に應用すれば得る所が少くあるまい。兎に角最近數年に於ける我が運動競技の進境は驚くべきものがあり、レコード破りが相續いで起るのは喜ぶべき事である。この勢を失はず、益々健全なる發達を爲さんことを望むのである。

近頃女子の運動界もやゝ活氣を呈して來たことは、喜ばしいことである。この勢で女學校でも運動を奨励し、又選手を出して輸贏を争ふ事もよい。女子の體育は今後尙大に奨励普及する必要がある。女が弱くて強い男が生れる筈がない。オリンピックの優勝は、その選手を生んだ母の優勝を示すことを忘れてはならぬ。この點からいへば、運動競技の成績を擧げるには、女子の體格から改善して行くことが、根本的である。但餘り他から煽動せず、神經質にせず、過



度に陥らず、着實健全にこれを養護して、順當の發達を續けしめたいものである。

## 附 録

### オリンピック、ゲームスの復興

古代のオリンピック、ゲームスは、西暦紀元三九四年第二百九十三回を以て絶えたのであるが、それが千五百二年の後、一八九六年復興される事となつた。今その由來を畧記しよう。

一八八三年佛國のクーベルタン男爵 Baron Pierre de Coubertin が政治學の學校を卒へて、英國に渡り、この國のバブリック、スクールズの教育及び社交の状態を研究した。その間に彼れは、廣く讀まれるヒューズの教育小説 'Tom Brown's Schooldays' に記してあるやうな、バブリック、スクールズの生活及びラクビー學校の有名な校長で、英國の教育に多大の影響を與へた Thomas Arnold の教育の理想から、深い印象を受け、英國青年の身體的、社交的並に道

德的發達に及ぼす運動競技の價値の大なることを認めた。そこで彼れは英國と同様な教育的効果を、佛國にも收めんが爲に、全力を注がうと決心した。

かくてクーパーは十年間不轉退の努力を續けたが、結果は見るべきものがなかつた。その間にも、彼れは巴里の少數の中等學校等にスポーツを輸入し、又一八八九年の巴里大博覽會と關聯して運動競技會を催した。彼れは又米國に行つてそのカレッジスを應訪して、その體育の狀況を視察し、本國にアスレチック協會を組織し、又雜誌「アスレチック評論」を發行した。しかし彼れが佛國に運動競技を奨励普及せんとするこの努力に對して、世間は冷淡であり、又反對を受けた事も少くなかつた。彼れは一八九二年「佛國アスレチック協會」の記念祝賀の節、ソルボンヌ大學で催された集會の席上に於て「古代中世及び現代に於け體育」といふ講演をなし、オリンピック、ゲームスの復興を提唱した。彼れはまだプリンストン大學の *Stoane* 教授及び英國素人アスレチック協

會の幹事 Herbert と共に、素人を本位とする競技の研究及び宣傳の爲の萬國會議を、巴里で一八九四年六月に開くこととした。その主意書の末節には、次の文句があつた。「現代の生活及び事情に適合するオリンピック、ゲームスを復活すれば、四年毎に世界各國の代表者を一所に會合せしめることが出來、また彼等の平和にして禮讓を重んずる競技は、インターナショナルの最上の形式を作成することが出來るであらう」。

この會議は、成るべく、一八九六年に、この競技と最も歴史的緣故の深いギリシャのアテネ(アゼニス)で、現代オリンピック、ゲームスを開始し、一九〇〇年の巴里大博覽會の節、これと關聯して第二のゲームスを開くことを可決した。この計畫はクーパー男爵を會頭とせる萬國オリンピック、ゲームス委員會に由つて、着々實行の歩を進め、ギリシャ人も熱心にこの舉に賛成し、遂に豫定の如く、一八九六年第一回のゲームスをアテネに開催することとなつた

のである。この會には歐米の各國から選手が參集し、徒歩競走、跳躍、砲丸投、圓盤投、游泳、器械體操、相撲、劍道、射撃、自轉車競走等に就て競技を行つた。その中、最も興味をひいたのは、マラソン、レースであつた。このレースの由來は次の通りである。

紀元前四百九十年ペルシヤ王 Darius I がギリシヤを征服すべく、兵十萬を進めたのを、アテネの將 Miltiades がアテネの軍隊を率ゐ、九月十二日、アテネを距る北東四〇キロメートルなる Marathon に迎へ撃つて、これを破つた。それはアテネ人の勇氣と平素の體育の賜物に外ならなかつたのである。その時マラソンからアテネまで、使者がひた走りに走つて來て、Nike (勝利) の一語を發して、息絶えたといふた事がある。それで今日も、マラソンにはアテネの戦死者(一九二人)を葬れる丘があり、ミルチアデスの記念碑がある。マラソン、レースはこれに因んで、マラソンからアテネまで競走したのである。この

レースの優勝者には、佛國學士院會員 Michel Bréal の提供せる記念賞もあり、ギリシヤ國民は是非ギリシヤ人に勝たしたかつたのである。レースは一八九六年四月十七日(金曜)の午後に行はれた。而してギリシヤ人の期待は満たされて第一、第二、第三着とも、ギリシヤ人であつた。第一着は Jones といつて、アテネから二時間歩程の Amarnisi 村の若い農夫であつた。ルーエスが決勝點に近づくや、花と花輪が雨の如く降り、ギリシヤの皇太子とジョージ親王が、ルーエスをスタヂオンから連れ出される間、プログラムは一時中止された。この日觀衆は少くも七萬を算し、ギリシヤ國王及びセルビア國王も玉座に在つて觀覽せられた。日曜には、王宮で國王から選手に晝餐を賜はり、次の水曜には、國王から優勝選手に賞牌と賞狀とを授けられた。競技中、ギリシヤ人の外國選手の勝利に對する賞讃は、中世騎士的のものであつた。今この第一回の競技の成績の或ものを擧げよう。尙對照の爲に、一九二八年アムステルダムで行はれ

た第九回の大会の成績を併せ掲げる。

	1896	1928
100米競走	Burke(米) 12秒	Williams(カナダ) 10秒 4-5
400' "	Burke 54秒 1-5	Barbutti(米) 47秒 3-5
800' "	Flack(豪洲) 2分11秒	Lowe(英) 1分51秒 4-5
1500' "	Flack 4分33秒 1-5	Larva(芬) 3分53秒 1-5
110米高障碍	Curtis(米) 17秒 3-5	Atkinson(南阿) 14秒 4-5
走幅跳	Clark(米) 20呎9吋 3-4	Hamm(米) 7米 73
走高跳	Clark 5呎11吋 1-4	King(米) 1米 94
棒高跳	Hoyt(米) 10呎9吋 3-4	Carr(米) 4米 20
砲丸投	Garrett 36呎2吋	Kuck(米) 15米 86
圓盤投	Garrett 95呎吋 1-2	Houser(米) 47米 32

アゼンスに於ける第一回現代オリンピック、ゲームスは世界的興味を喚起し、

爾來四年毎にこれが行はれることになった。即ち一九〇〇年巴里(第二回)、一九〇四年米國セント、ルイズ(第三回)、一九〇八年ロンドン(第四回)、一九一二年ストックホルム(第五回)、一九一六年にはベルリンで催される筈であつたが戦争のため止め。一九二〇年アントワープ(第七回)、一九二四年巴里(第八回)に於て催された。而して回を重ねる程益々盛んとなり、歐米のみならず、東洋南洋からも参加し、レコードも度毎に破られるものが多い。今回は一九二八年にアムステルダムで催される豫定である。我が國選手が始めてこれが陸上競技に参加したのは、一九一二年ストックホルムの時からで、爾來毎回参加し、一九二四年から水上競技にも参加し、水陸共始めて得點があつた。我が競技界も

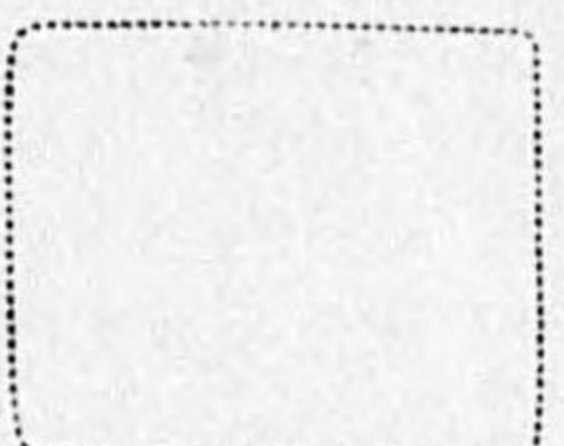
最近一兩年に於て、陸上、水上共長足の進歩をなしたから、本年のオリンピック競技には相當の期待をもつて居たところ、その期待を裏切らない好成绩を挙げたことは、快心のことであり、尙今後の大なる發展を望むことである。

# 運動競技と國民性終

昭和三年九月十一日印  
昭和三年九月十五日發

刷 『運動競技と國民性』  
行 定價金壹圓六拾錢

版權所有



著作者 下 田 次 郎  
 發行者 株式會社 右 文 館  
 右代表者 橋 本 恒 之  
 印刷者 東京市神田區表神保町三番地 西 岡 勤  
 印刷所 東京市神田區表神保町三番地 右 文 館 印 刷 部

發行所  
**株式會社 右文館**  
 假營業所 東京市神田區錦町一ノ二  
 電話 神四九七二 〇七五七四 〇七五七四



終